

事業評価シート

番号 0760050 - 001

【1.基本情報】

事業名	魚類放流事業				
担当部名	経済部	担当課名	畜産課		
未来地図政策	農林水産業の活性化			政策コード	3 - 3 - 0 - 0
実施方法	委託(民間)	補助の種類※	実施主体	長良川漁業協同組合	
実施期間	昭和59 年度～	年度	根拠法令 関連計画※		

【2.事業概要】

事業の目的	未成魚アユの放流及び人工ふ化を実施することにより、長良川における水産資源の確保に努め、内水面漁業の振興を図る。	
事業の内容	未成魚アユ800kgを7～8月に4回に分けて長良川へ放流する。 また、親魚から採卵及び採精し、人工授精した後、長良川河口堰人工河川にて人工ふ化させる。	
事業の対象	何を	未成魚アユの放流及びアユの受精卵の人工ふ化
	誰に (対象者・対象者数)	市民、漁業者
	どのくらい (具体的 数値で)	未成魚アユ800kg、アユの受精卵4,200万粒
令和2年度 (実施内容)	未成魚アユ800kgを7～8月に4回に分けて長良川へ放流した。 また、親魚から採卵及び採精した受精卵(受精卵として4,200万粒)をシュロ1,400本に付着させ、定着後長良川河口堰人工河川にて人工ふ化させた。	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成30年度決算額		令和元年度決算額		令和2年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	666	21	714	21	683	21
パートタイム(嘱託職員)	0		0		0	
パートタイム(アルバイト)	0		0		0	
計(A)	666	21	714	21	683	21

(2)物にかかるコスト

直接経費 【直接事業費】 (B)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
		5,563	5,666	5,868
直接事業費の主な内訳		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
項目	委託料	5,562	5,665	5,867
	旅費	1	1	1
減価償却費 【施設管理】※ (C)				
計(D)=B+C		5,563	5,666	5,868

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	6,229	6,380	6,551

【4.収入】

収入内訳	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	0	0	0

【5.収支】

市負担額一般 財源(E-F)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	6,229	6,380	6,551

【6.コストバランス】

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業受益者	市民、漁業者	市民、漁業者	市民、漁業者
受益者数	701	679	672
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	8,885	9,396	9,748

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	アユ人工ふ化卵数		単位
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	4,200	4,200	4,200
実績値	4,200	4,200	4,200

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	河口堰のアユ遡上数		単位
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	100	100	60
実績値	84	59	81
達成状況	×(未達成)	×(未達成)	○(達成)

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	アユ(天然)が岐阜市版レッドリストの準絶滅危惧に選定されたことから、稚アユの放流及び人工ふ化が必要。 内水面漁業の維持は公益性が高く、民間単独では負担が重い ため市の補助が必要。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	民間だけでは達成が困難である。 長良川流域の各市町でも実施されていることから、広域的な事業である。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	アユの放流及び人工ふ化は水産振興に一定の成果がでている。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	受益者は全市民であり、水産資源の確保に努めることは適正である。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む。)・廃止)	現状維持	アユ(天然)が岐阜市版レッドリストの準絶滅危惧に選定されたことから、稚アユの放流及び人工ふ化が必要である。

事業評価シート

番号 0760050 - 002

【1.基本情報】

事業名	長良川下流域魚族保護対策協議会負担金				
担当部名	経済部	担当課名	畜産課		
未来地図政策	農林水産業の活性化		政策コード	3 - 3 - 0 - 0	
実施方法	補助	補助の種類※	加入団体負担金	実施主体	長良川下流域魚族保護対策協議会
実施期間	昭和48年度～	年度	根拠法令 関連計画※	長良川下流域魚族保護対策協議会規約	

【2.事業概要】

事業の目的	長良川下流域における魚族保護を積極的に推進し、河川の自然環境保全に努めるため、関係市町と長良川漁業協同組合とが連携して魚族の保護と増殖を図るとともに、河川の汚濁防止と自然環境保全に努め、地域住民の生活向上に寄与することを目的とする。				
事業の内容	アユや雑魚の放流、河川の汚濁防止及び自然環境保全に関する援助を積極的に実施している。				
事業の対象	何を	アユや雑魚(ナマズ、ヘラブナ、モクズガニ等)の放流、河川汚濁の防止及び自然環境の保全			
	誰に (対象者・対象者数)	市民、漁業者及び遊漁者			
	どのくらい (具体的数値で)	アユ2,647kg、銀毛アマゴ1,800kg、ヘラブナ752kg、ウナギ249.5kg、ナマズ180.5kg、モクズガニ10,875匹等の放流			
令和2年度 (実施内容)	長良川下流域9市町及び長良川漁業協同組合の協力の下、アユ、ウナギ、ナマズ、ヘラブナ、銀毛アマゴ、モクズガニを放流するとともに、魚族保護・増殖や河川汚濁防止及び自然環境保全活動を流域単位で実施した。				

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成30年度決算額		令和元年度決算額		令和2年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	539	17	578	17	553	17
パートタイム(嘱託職員)	0		0		0	
パートタイム(アルバイト)	0		0		0	
計(A)	539	17	578	17	553	17

(2)物にかかるコスト

直接経費 【直接事業費】 (B)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
		3,521	3,521	3,584
直接事業費の主な内訳		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
項目	負担金	3,521	3,521	3,584
減価償却費 【施設管理】※ (C)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
計(D)=B+C		3,521	3,521	3,584

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	4,060	4,099	4,137

【4.収入】

収入内訳	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	0	0	0

【5.収支】

市負担額一般 財源(E-F)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	4,060	4,099	4,137

【6.コストバランス】

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業受益者	市民、漁業者及び遊漁者	市民、漁業者及び遊漁者	市民、漁業者及び遊漁者
受益者数	701	679	672
受益者負担額(千円)	8,891	7,288	7,708
受益者負担率(%)	219.0%	177.8%	186.3%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	5,792	6,037	6,156

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	魚類放流量		単位
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	7,820	8,396	7,488
実績値	7,475	6,629	6,337

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	河口堰のアユ遡上数		単位
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	1,000	1,000	1,000
実績値	848	592	812
達成状況	×(未達成)	×(未達成)	×(未達成)

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか ②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	自然環境の保全を図る本事業の公益性は高い。 国又は県が一律に実施すべき事業でない。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	広域的に連携し実施している。 民間だけでは達成が困難なニーズである。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	長良川下流域水系における環境は、家庭排水等の流入による水質悪化、河口堰の建設に伴う遡上への影響、カワウ等による食害、アユの冷水病、コイヘルペスの発生など非常に厳しい状況にある。そのため、魚族保護の推進や環境保全対策が急務となっている。また、鵜飼についても鵜が捕獲するアユの数量が年々減少している。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	受益者負担が、50%以上占めており負担額は適正である。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む。)・廃止)	現状維持	生物多様性損失の阻止を図り、河川の汚濁防止等、自然環境保全が必要である。

事業評価シート

番号 0760050 - 003

【1.基本情報】

事業名	家畜診療及び人工授精業務				
担当部名	経済部	担当課名	畜産課		
未来地図政策	農林水産業の活性化		政策コード	3 - 3 - 0 - 0	
実施方法	直営	補助の種類※	実施主体	岐阜市	
実施期間	昭和45 年度～	年度	根拠法令 関連計画※		

【2.事業概要】

事業の目的	家畜の疾病の予防・治療、人工授精による家畜の改良増殖を促進して畜産業の振興を図る。	
事業の内容	市内畜産農家が飼養する乳牛、肉用牛、豚、鶏について診療及び予防注射を行う。 乳牛、和牛の雌牛に人工授精を行う。	
事業の 対象	何を	家畜診療ならびに人工授精
	誰に (対象者・対 象者数)	市内畜産農家の家畜
	どのくらい (具体的 数値で)	畜産農家の依頼に応じて
令和2年度 (実施内容)	診療1,301件(2,011回)、人工授精230件、予防注射1,605頭を実施した。	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成30年度決算額		令和元年度決算額		令和2年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	18,703	590	19,890	585	19,175	590
パートタイム(嘱託職員)	0		0		0	
パートタイム(アルバイト)	0		0		0	
計(A)	18,703	590	19,890	585	19,175	590

(2)物にかかるコスト

直接経費 【直接事業費】 (B)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
		14,398	13,125	12,877
直接事業費の主な内訳		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
項目	医薬品	12,886	10,619	9,047
	備品	384	1,322	2,684
	燃料費	182	338	303
減価償却費 【施設管理】※ (C)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
計(D)=B+C		14,398	13,125	12,877

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	33,101	33,015	32,052

【4.収入】

収入内訳	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料	17,280	13,817	15,074
その他	248	358	325
計(F)	17,528	14,175	15,399

【5.収支】

市負担額一般 財源(E-F)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	15,573	18,840	16,653

【6.コストバランス】

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業受益者	畜産農家	畜産農家	畜産農家
受益者数	20	20	22
受益者負担額(千円)	17,528	13,123	14,713
受益者負担率(%)	53.0%	39.7%	45.9%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	778,650	942,000	756,955

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	診療件数		単位
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	1,108	1,180	1,091
実績値	1,321	1,420	1,301

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	生産物販売額		単位
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	1,000	1,000	1,000
実績値	983	856	-
達成状況	×(未達成)	×(未達成)	—

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	獣医療を提供できる機関が不十分なことから、市が実施することが妥当である。 国・県が実施するものではない。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	広域的な連携でなく単独で実施するものである。 畜産業の経営環境は厳しく、今以上の民間参入が期待できない。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	家畜の多頭飼養化が進む中、一度発生すると社会的、経済的に甚大な被害を及ぼす豚熱や高病原性鳥インフルエンザ等の家畜伝染病の発生が危惧されている。農家には家畜飼養管理基準の遵守が義務付けられており、日頃からの高い予防意識が必要となっている。診療や予防注射、人工授精時にこれらについての啓発、指導を実施している。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	家畜診療点数に応じた診療費を支払っており、受益者負担は適正である。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む。)・廃止)	現状維持	獣医療を提供できる機関が不十分なことから、市内畜産農家へ獣医療を提供し、安全安心な畜産物を生産するうえで必要な事業である。

事業評価シート

番号 0760050 - 004

【1.基本情報】

事業名	畜産構造改革支援事業				
担当部名	経済部	担当課名	畜産課		
未来地図政策	農林水産業の活性化		政策コード	3 - 3 - 0 - 0	
実施方法	補助	補助の種類※	団体事業補助金	実施主体	市内畜産農家
実施期間	平成28年度～	年度	根拠法令 関連計画※	岐阜市農林水産関係振興補助金交付要綱	

【2.事業概要】

事業の目的	県が推進する、地域が主体となって戦略的に取り組む畜産構造改革支援事業に対し、市としても支援を実施し、持続可能な力強い農業の実現や6次産業化の促進、農商工連携のための生産基盤の強化を推進する。	
事業の内容	県産主産地の維持・拡大を図るため、担い手の確保や生産基盤の強化、家畜伝染病疾病の発生予防の取組みに対し、生産基盤整備に要する経費の一部を補助する。	
事業の対象	何を	生産基盤整備に要する経費の一部に対する支援
	誰に (対象者・対象者数)	岐阜市内畜産農家で県より補助金の交付を受ける農家
	どのくらい (具体的数値で)	県の補助額に、県補助額に2分の1を乗じた額以内の額を加算する。 補助対象経費の上限40,000,000円。
令和2年度 (実施内容)	岐阜県畜産振興事業補助金交付要綱に規定される強い畜産構造改革支援事業(担い手育成支援型、家畜伝染病対策支援型)に対して、55,881,000円の補助金を交付した。	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成30年度決算額		令和元年度決算額		令和2年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	0	0	340	10	975	30
パートタイム(嘱託職員)	0	0	0	0	0	0
パートタイム(アルバイト)	0	0	0	0	0	0
計(A)	0	0	340	10	975	30

(2)物にかかるコスト

直接経費 【直接事業費】 (B)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
		0	132	55,881
直接事業費の主な内訳		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
項目	補助金	0	132	55,881
減価償却費 【施設管理】※ (C)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
計(D)=B+C		0	132	55,881

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	0	472	56,856

【4.収入】

収入内訳	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金	0	132	43,921
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	0	132	43,921

【5.収支】

市負担額一般 財源(E-F)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	0	340	12,935

【6.コストバランス】

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業受益者	畜産農家	畜産農家	畜産農家
受益者数	0	2	4
受益者負担額(千円)	0	159	110,593
受益者負担率(%)		33.7%	194.5%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)		170,000	3,233,750

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	畜産構造改革への補助		単位
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	0	2	5
実績値	0	2	4

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	家畜伝染病の抑制		単位
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	-	0	0
実績値	-	0	0
達成状況	—	○(達成)	○(達成)

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	家畜伝染病のまん延の防止、近代的な畜舎による家畜の生産を通し、消費者に安心・安全な畜産物を提供するために妥当。 スマート農業の推進、地産地消の促進、農業振興・農業後継者の確保が期待され、市のビジョンに一致。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	1名が新規就農。 担い手育成支援型の補助を受けた3農家で、令和7年度までに肉用牛398頭の増頭を計画。 利用者、受益者とも地域的である。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	肥育和牛の一貫生産が進み、枝肉価格が低迷する中でも、売上額減少被害を低くすることができる。 また、担い手の確保に一定の効果が見られた。 家畜排せつ物処理施設を建設し、堆肥を自家処理することで家畜伝染病の発生リスクが抑えられる。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	畜産農家及び一般市民の受益者としての負担は適正である。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	改善 (統合・縮小含む)	岐阜市の畜産農家の減少が抑えられ、新たに飛騨牛の産地として県内でも認められるようになったため、今後もこの取組を継続する。 補助対象については県とも協議し、随時改善を図っていく。

事業評価シート

番号 0760050 - 005

【1.基本情報】

事業名	岐阜市畜産振興会育成事業				
担当部名	経済部	担当課名	畜産課		
未来地図政策	農林水産業の活性化		政策コード	3 - 3 - 0 - 0	
実施方法	補助	補助の種類※	団体育成補助金	実施主体	岐阜市畜産振興会
実施期間	昭和39 年度～	年度	根拠法令 関連計画※	岐阜市農林水産関係振興補助金交付要綱	

【2.事業概要】

事業の目的	畜産に関する諸事業に取り組むと共に、部会活動(肥育牛、酪農、養豚、養鶏、養蜂)の円滑化を図り、岐阜市の畜産振興を推進する。	
事業の内容	効率的で経済性の高い経営体の育成、経営感覚に優れた意欲ある畜産農家の自主性と創意工夫を生かすための視察研修会、技術講習会、畜産物のPR活動、畜産共進会の開催等を推進する。	
事業の 対象	何を	畜産振興に対する支援
	誰に (対象者・対象者数)	岐阜市畜産振興会会員39名
	どのくらい (具体的 数値で)	補助率3/10以内、補助金額324,072円、補助対象経費1,080,243円
令和2年度 (実施内容)	畜産共進会1回。例年行われている技術研修会、岐阜市農業まつりでのPR活動は新型コロナウイルスの影響により中止。	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成30年度決算額		令和元年度決算額		令和2年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	1,268	40	1,360	40	975	30
パートタイム(嘱託職員)	0		0		0	
パートタイム(アルバイト)	0		0		0	
計(A)	1,268	40	1,360	40	975	30

(2)物にかかるコスト

直接経費 【直接事業費】 (B)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
		345	345	325
直接事業費の主な内訳		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
項目	補助金	345	345	325
減価償却費 【施設管理】※ (C)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
計(D)=B+C		345	345	325

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	1,613	1,705	1,300

【4.収入】

収入内訳	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	0	0	0

【5.収支】

市負担額一般 財源(E-F)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	1,613	1,705	1,300

【6.コストバランス】

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業受益者	畜産農家	畜産農家	畜産農家
受益者数	36	36	39
受益者負担額(千円)	1,096	978	903
受益者負担率(%)	67.9%	57.4%	69.5%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	44,806	47,361	33,333

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	事業、イベント等の実施回数	単位	回
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値			7
実績値			1

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	事業費	単位	千円
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値			1,215
実績値			1,080
達成状況			×(未達成)

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	畜産経営環境が厳しくなる中、市の支援が必要。 国又は県が一律に実施すべき事業でない。 地産地消立市を推進する上で必要。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	広域的に実施すべき面は県が実施し、地域的に実施した方が いい面を市が実施している。 民間の当該事業に係る基盤が脆弱であるため市の支援が必要。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	畜産農家の高齢化、飼料の高騰、畜産物価格の低迷、家畜伝 染病の発生、飼養環境問題、海外からの安価な畜産物の輸入 等により、年々畜産経営は圧迫されている。一方で、消費者か らは安全安心な畜産物を求める声が高まっている。その対策と して、畜産振興会が実施する諸事業を支援することにより、畜産 の振興を図る。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	受益者負担が、50%以上占めており補助額は適正である。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む。)・廃止)	現状 維持	畜産経営環境の変動に対応していくため、より一層の事業の効 率化及び畜産農家の連携が必要であり、これらを実現していく 組織に対する支援は継続すべきである。

事業評価シート

番号 0760050 - 006

【1.基本情報】

事業名	(公財)みつばちの家事業				
担当部名	経済部	担当課名	畜産課		
未来地図政策	農林水産業の活性化		政策コード	3 - 3 - 0 - 0	
実施方法	補助	補助の種類※	団体育成補助金	実施主体	(公益財団法人)みつばちの家
実施期間	平成6 年度～	年度	根拠法令 関連計画※	岐阜市農林水産関係振興補助金交付要綱	

【2.事業概要】

事業の目的	みつばち及び養蜂に関する資料を「みつばちの家」で展示し、来館者にみつばちや養蜂業、「近代養蜂発祥の地 岐阜」をPRする。また、養蜂技術研修等を行い、養蜂技術の向上を図る。	
事業の内容	効率的で経済性の高い経営体の育成、経営感覚に優れた意欲ある畜産農家の自主性と創意工夫を生かすための視察研修会、技術講習会、畜産物のPR活動、畜産共進会の開催等を推進する。	
事業の対象	何を	「みつばちの家」の公益事業に対する支援
	誰に (対象者・対象者数)	(公益財団法人)みつばちの家
	どのくらい (具体的数値で)	補助率3/10以内、補助金額314,400円、補助対象経費1,579,755円
令和2年度 (実施内容)	来館者に対して、みつばち及び養蜂業の貴重な資料を展示・紹介し、その特性の周知に努めた。	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成30年度決算額		令和元年度決算額		令和2年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	95	3	102	3	98	3
パートタイム(嘱託職員)	0		0		0	
パートタイム(アルバイト)	0		0		0	
計(A)	95	3	102	3	98	3

(2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
		315	315	315
直接事業費の主な内訳		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
項目	補助金	315	315	315
減価償却費【施設管理】※(C)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
計(D)=B+C		315	315	315

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	410	417	413

【4.収入】

収入内訳	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	0	0	0

【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	410	417	413

【6.コストバランス】

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業受益者	養蜂業者及び来館者	養蜂業者及び来館者	養蜂業者及び来館者
受益者数	4,254	770	2,105
受益者負担額(千円)	1,950	1,950	1,950
受益者負担率(%)	475.5%	467.6%	472.7%
受益者1人当たりのコスト(円、一般財源ベース)	96	542	196

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	開館日数	単位	日
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	234	235	233
実績値	234	235	235

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	岐阜市内からの来場者数	単位	人
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	2,500	2,700	2,800
実績値	2,190	533	1,481
達成状況	×(未達成)	×(未達成)	×(未達成)

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	「近代養蜂発祥の地 岐阜」のブランドを市としてPRする必要がある。 本市にある公益法人であることから市が果たすべき役割が大きい。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	公益事業には収益が伴わないため、今以上の民間の活用は困難である。 広域的に実施するニーズや環境が整っていない。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	ここ数年(平成25年～平成27年)で県の補助も得ながら老朽化した施設の補修・改修を実施した。 子供向けの展示に切り換え、子供の来館者が増えてきていたが、令和2年度は、新型コロナウイルスの影響が大きく入場者数が減少した。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	養蜂事業者9社からの分担金で運営されており、養蜂関係の展示・研修・啓蒙用施設として目的を達成している。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む。)-廃止)	現状維持	みつばちは、本市の特産品である「柿」や「いちご」の花粉交配等に利用されており、この特性等を紹介する「みつばちの家」は、食農教育に有効であり、これをサポートしていく必要がある。

事業評価シート

番号 0760050 - 007

【1.基本情報】

事業名	世界農業遺産啓発事業				
担当部名	経済部	担当課名	畜産課		
未来地図政策	農林水産業の活性化		政策コード	3 - 3 - 0 - 0	
実施方法	補助	補助の種類※	加入団体負担金	実施主体	世界農業遺産「清流長良川の鮎」推進協議会 (岐阜県、岐阜市、関市、美濃市、郡上市他)
実施期間	平成28年度～	年度	根拠法令 関連計画※	世界農業遺産「清流長良川の鮎」推進協議会規約 世界農業遺産「清流長良川の鮎」推進協議会負担金交付要綱	

【2.事業概要】

事業の目的	世界農業遺産「清流長良川の鮎」の魅力を国内外に向けて発信するため、世界農業遺産の取組を推進する。	
事業の内容	シンポジウムやマルシェなどのイベントの開催、鉄道・バスのラッピングやパンフレット配布のPRなど、長良川上中流域の普及・啓発活動を実施する。また、市独自のイベントとして、世界農業遺産「清流長良川の鮎」を市民に広くPRする「GIAHS鮎の日」イベントを開催する。	
事業の対象	何を	世界農業遺産の取組のPR / 「GIAHS鮎の日」イベントの開催
	誰に (対象者・対象者数)	国内外 / 岐阜市民
	どのくらい (具体的数値で)	不特定多数 / 200名程度
令和2年度 (実施内容)	「GIAHS鮎の日」イベントを、長良川漁業協同組合と共同で開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症及び天候等を考慮し、中止となった。	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成30年度決算額		令和元年度決算額		令和2年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	1,585	50	1,700	50	1,495	46
パートタイム(嘱託職員)	0		0		0	
パートタイム(アルバイト)	0		0		0	
計(A)	1,585	50	1,700	50	1,495	46

(2)物にかかるコスト

直接経費 【直接事業費】 (B)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
		2,618	2,267	1,224
直接事業費の主な内訳		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
項目	補助金	2,013	1,734	1,076
	委託費	299	378	82
	消耗品費	144	93	66
減価償却費 【施設管理】※ (C)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
計(D)=B+C		2,618	2,267	1,224

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	4,203	3,967	2,719

【4.収入】

収入内訳	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	0	0	0

【5.収支】

市負担額一般 財源(E-F)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	4,203	3,967	2,719

【6.コストバランス】

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業受益者	GIAHS鮎の日イベント参加者	GIAHS鮎の日イベント参加者	GIAHS鮎の日イベント参加者
受益者数	133	424	0
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	31,602	9,356	

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	GIAHS鮎の日イベント参加者数	単位	人
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値			210
実績値			-

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	認知度	単位	%
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値			50
実績値			-
達成状況			—

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	中	岐阜県が中心となって推進する「清流長良川の鮎」が世界農業遺産に認定されたため。 岐阜市は長良川流域の自治体であり、「清流長良川の鮎」を象徴とする「長良川システム」の保全、継承を目的とした世界農業遺産「清流長良川の鮎」推進協議会の会員となっている。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	中	「GIAHS鮎の日」イベントは夏休み中の開催であり、家族連れを中心に多数の参加があるが、屋外のイベントであるため天候の影響を受けやすい。 「GIAHS鮎の日」は岐阜県が制定しており、イベントについては、流域の4市が県のイベントと同日に開催している。 イベントの開催にあたり、関係団体である長良川漁業協同組合と連携し、発信力を高めていく。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	中	「GIAHS鮎の日」イベントは、参加者が長良川や鮎との触れ合いを通じ、「清流長良川の鮎」に親しむ機会となっている。令和2年度も多く参加申込があったが、新型コロナウイルス感染症及び天候等を考慮し、開催前中止となった。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	中	協議会の負担金は、岐阜県が1/2、残りの1/2を流域4市が分担して負担しており、適正である。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む。)・廃止)	現状維持	「GIAHS鮎の日」イベントは夏休み中の開催であり、家族連れを中心に多数の参加がある。イベントを通じて、地域ぐるみで自然環境の保護・保全に取り組み、世界農業遺産である「長良川システム」を保全・継承していく。

事業評価シート

番号 0760050 - 008

【1.基本情報】

事業名	エコプラント椿事業				
担当部名	経済部	担当課名	畜産課		
未来地図政策	農林水産業の活性化			政策コード	3 - 3 - 0 - 0
実施方法	直営	補助の種類※	実施主体	岐阜市	
実施期間	平成11年度～	年度	根拠法令 関連計画※		

【2.事業概要】

事業の目的	市内の未利用有機質資源である家畜ふん及び本市の設置する学校等の公共施設から排出される給食残さを堆肥化し、有機肥料として有効利用することにより、環境保全型農業及び資源循環型社会の形成を推進し、もって地域農業の振興を図る。	
事業の内容	市内養鶏農家から出る鶏ふんや畜産センター公園から出る家畜ふん、市内小中学校等から出る給食残さを主な原料として、約6週間をかけて混合・発酵させ堆肥化する。堆肥は「椿」という商品名で、畜産センター公園、市内のJA等園芸店で販売している。	
事業の対象	何を	有機肥料「椿」、市内農家の排出する鶏ふん
	誰に (対象者・対象者数)	農業従事者及び家庭菜園を活用する一般市民、養鶏業者
	どのくらい (具体的数値で)	販売量：年間約272t、鶏ふん受入量：362t(令和2年度実績)
令和2年度 (実施内容)	鶏ふん処理手数料収入：743,743円、鶏ふん受入量：286t、畜産センター公園家畜ふん：19t、給食残さ：54t、食肉市場家畜ふん：0t、水分調整もみ：2t 堆肥「椿」販売量：272.5t 販売収入：5,398,170円	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成30年度決算額		令和元年度決算額		令和2年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	8,242	260	8,840	260	8,450	260
パートタイム(嘱託職員)	10,712	1,040	10,816	1,040	10,712	1,040
パートタイム(アルバイト)	0		0		0	
計(A)	18,954	1,300	19,656	1,300	19,162	1,300

(2)物にかかるコスト

直接経費 【直接事業費】 (B)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
		32,513	14,255	34,346
直接事業費の主な内訳		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
項目	工事費	21,445	482	30,835
	電気料	3,827	3,652	3,511
	委託料	2,986	4,404	3,401
減価償却費 【施設管理】※ (C)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
計(D)=B+C		32,513	14,255	34,346

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	51,467	33,911	53,508

【4.収入】

収入内訳	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料	1,187	1,048	743
その他	5,685	4,445	5,398
計(F)	6,872	5,493	6,141

【5.収支】

市負担額一般 財源(E-F)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	44,595	28,418	47,367

【6.コストバランス】

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業受益者	一般市民、養鶏農家、市内小中学校等	一般市民、養鶏農家、市内小中学校等	一般市民、養鶏農家、市内小中学校等
受益者数	1,327	161	443
受益者負担額(千円)	6,872	5,493	6,141
受益者負担率(%)	13.4%	16.2%	11.5%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	33,606	176,509	106,923

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	鶏ふん受入量		単位
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	393	650	622
実績値	334	408	272

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	堆肥販売量		単位
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	393	369	328
実績値	334	280	321
達成状況	×(未達成)	×(未達成)	×(未達成)

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	資源循環型社会形成という社会の要請に応えるため市が実施することが妥当。 国又は県が一律に実施すべき事業でない。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	中	維持管理費用がかさむため、民間活用は困難である。 利用者、受益者が地域的である。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	堆肥原料である鶏ふんの受入量は一定量確保に目途がついており、製品の生産量に見合った販売先を確保し、売払収入を増加させる。 堆肥「椿」は、生産量に応じた販売量で推移しており堅調である。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	養鶏農家及び一般市民の受益者としての負担は適正である。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む。)・廃止)	現状維持	ごみとなる鶏ふん・給食残さ等を堆肥化して有効活用し、経費についてもごみとして処理するよりコストがかかっていないため。一方施設が建設されてから20年以上経過したため、これからのあり方については検討を進める。